

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

柳 収 一 郎

○長野県松本市

「街なみ環境整備事業」及び「歩いてみたい城下町整備事業」について

【所 見】

この事業は、中心市街地のまちづくりということで松本城周辺の5地区で、それぞれの地区の特徴を活かした整備を地区ごとに行ってきたものである。

特に注目したのは、市民が主体となって行政と協働でまちづくりを行ってきたのであるかどうかであった。地区ごとに住民が「まちづくり協定書」を策定し、その後、各地区とも「まちづくり推進協議会」を設立し、目的に向かって住民が協議検討をしてきている。

そのうちの「中町地区」の例であるが、整備については、町会役員や商店街の代表な中には両論あった。しかし、自分達の街を居心地が良くするにはどうしたらよいか。他人のためではない。行政主導ではなく、まちづくりは市民が行うという意識をもっていただいたことは大変重要なことが芽生えていったと言える。事業が成功するかしないかは、このことが最も大切なことで委員の多くが注目をした点であった。

さらに、事業の反対者に対しては、ともに考え住民の意識を高めることに努めたようである。また、事業の内容も基本的に土地を市が買収する部分はなく、道路も拡幅しないで石畳にする等の整備であり、通りから見える自宅部分を改善したもので区画整理事業と違い事業の進捗状況も良かったようである。

また、一方で松本市は、「まちなみ修景事業」の制度を設けた。まちづくり協定を締結した地区において建物を新築・改築した場合に補助金を交付している。正面は蔵のある街風のつくりで色は黒と白を使用するとか、それぞれ工夫をしている。補助金額は建物の正面の改修等にかかる経費の3分の2の額で上限が300万円である。補助金を受けるには、「まちづくり推進協議会」内の協定運営委員会で、建物の様式が協定に沿ったものかどうかの審査を受け、協議会の推薦が必要となっている。推進協議会のメンバーは、3町会役員、町会長、商店街代表で構成され、一つの大事な部分を市民に託されているところは、見習うべきところである。

○長野県安曇野市

「安曇野市観光振興ビジョン」について

【所 見】

本計画は、観光関連事業者だけでなく市民や他の産業等との協働のもとに、安曇野市全体を観光を軸として豊かにしていこうとする計画に位置付けている。

注目をした点としては、目的ごとにプロジェクトチームを設けたが、市民が主体となって構成されていたようである。そのきっかけとなったのは、NHK連続テレビ小説「おひさま」のロケ地効果があったということである。平成23年4月から放映されたが、大変、大勢の市外からの観光客が訪れたとのこと、対前年比、約46%の増加であった。一過性の部分もあったが、その後、そばの店40店が今後の在り方等について、定期的に会合を持つようになるなど、大いに市民の意識が変わった。さらに、プロジェクトメンバーに電通の社員も加わってもらっていると同時に観光大使にも委嘱していることは知識を共有でき、心強く感じた。

一方で、当市は、観光協会に旅行業者のOBを2名配属しており観光振興を図るんだという意気込みも感じた。また、外国人観光客の誘致及び受け入れ対応としては、ホテルの通信環境設備費用として30万円を限度として補助制度を設けている。さらに、海外の旅行業者を招いてランチミーティングを行っており、外国人観光客の誘致体制を徐々に整えている。このようなことから外国人観光客は、平成24年度3,000人、平成25年度6,000人、平成26年度7,000人と年々増加傾向にある。

観光客の誘客は、国内の他市との競争はもちろんであるが、これからは外国人の誘客に力を入れると同時にリピーターを如何に増やすかであると考えている。それには、計画の時点からプロジェクトメンバーに安曇野市のように市民を入れて幅広い検討をすることが大切なことであると思う。一般的には、ほとんどの都市は職員が計画をして実現に向けてのプロジェクトメンバーも職員で構成している例が多い中で安曇野市の場合、実施に向けての効果は計り知れないものがあるものと感じた。

また、安曇野市は、湧水などの豊かな自然資源に恵まれているもので、新たな観光資源を開発するのではなく北アルプスの恵みである「水」をテーマにした戦略プロジェクトを主体として観光振興を図ろうと重点化している点は、足利市も参考となるものと思う。